

## 指導のポイント

- 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしてお互いの考えを深めていく学習活動となるよう工夫します。
- 教師と一部の児童だけの話合いにならないよう工夫します。児童が資料を理解したり、内容を深く受け止めたりする手助けとなるような方法を工夫します。

## 具体的事例

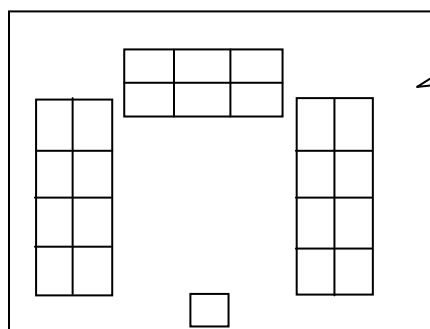
### ○ 話合い

・児童相互の考えを深める中心的な学習活動で、道徳の時間においても重要な役割を果たします。

- ・意見を出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じた話合いが行えるようにしましょう。
- ・話合いの目的に応じて、座席の配置を工夫することも考えられます。

・話合いは、言葉だけでなく、お互いの表情や身振り、手振りを見て話したり聞いたりすることでお互いの考えが伝わりやすくなります。

そのために・・・



コの字型の座席配置



真ん中のスペースを使って役割演技や動作化をすることもできます。

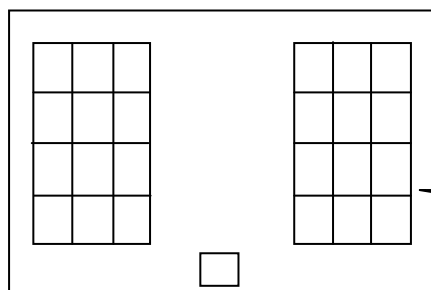


Point

- いくらお互いの顔が見える座席配置にしても、話し合おうという意識がなければ意味がありません。「問題意識をもたせる」、国語科で学んだ話合いの技能を活用する」などの工夫をしましょう。

- ・考えが2つに分かれるような討議形式の話合いでは、一人一人の立場を明確にすることも効果的です。

そのために・・・

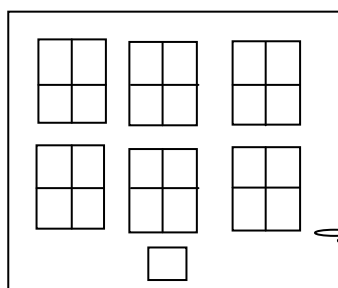


お互いに批判し合うような話合いにならないよう気をつけましょう！

同じ考えをもつ児童同士が集まるように座席を配置します。

- ・小グループやペアで話し合うことで、全員が話合いに参加し、自分の意見を表出することができます。

そのために・・・



机はそのままでも話し合えます。

グループは3～4人ぐらいが適当です。



Point

- 教師は話合いの全体を調整したり、それを進行したりします。

- ・ つなげる

例：「～さんの考えと似ている人はいるかな。」

- ・ 広げる

例：「～さんの考えについて、みんなはどう思うかな。」

- ・ 深める

例：「もう少しくわしく話してくれるかな。」

## 留意点

- 教師は、話合いの調整をするだけでなく、児童の話合いの能力の高まりとともに、児童相互に聞き合い、討論することができるように工夫することが大切です。